



Hypnotism Girl

基本CG 10枚 本編 56枚

「催眠術をやりたい？」

「そう、かなでそういうの信じてないから
かかるかどうか試してみたいんだ」





「あ、もしかしてかかっちゃうの怖い？」

「ば、馬鹿なこと言わないで！」

この私があんたみたいなのポンコツの催眠術なんて
かかるわけじゃないじゃない！」

(あいかわらずちよろいな…)




「ちょっと、なんで全部締め切っちゃうのよ!」

「いやあ、二人っきりのほうが

かなでもリラックスするかなって」

「ふ、ふーん。まあ私は催眠術とか信じてないけどね」

「はいはいじゃあはじめますよっ」と



「はい。じゃあこの五円玉みててねー」

「う、うん…(よくあるやつだな)」

「リラックスしてー俺の声をよく聴いて」

「う…ん」

「この五円玉の穴に何かが見えてくるよ。何が見える？」

「私、かな…」

「そうだね、そこに見えるのが本当の君だよ。」



「これが、私…」


「そっそっ

君はただ俺のいうことだけに従ってればいいからね。
だんだん身体も動かなくなってきたね」

「う…(やだ、本当に動かなくなってる…)」

「でも大丈夫だよ。俺が命令したことはできるようになるからね」

(くっ…嘘よこんなポンコツに催眠術なんてできっ…ないんだから！)



「さあまずはおっぱいを出してみようか」

(う、嘘……嫌なのに私自分で服を脱いでる……！)

「どうだ俺に自慢のかばいみせて嬉しんだろ」

「はい……(嫌！嫌！おっぱいなんて見られたくないのに……！)」

「はぁーしかしでかいおっぱいだな」

「そうだ、俺に揉んでくれって頼んでみるよ」

「誰がそんなことおねがいするもんですか！」

…お願いします。

かなでのでかばいをえっちに虐めてください

(やっ、なんで!?)

言いたくないのに勝手に…!」

「はぁーしょうがねえな!

このでかばい虐めてほしいって

お願いされたらしょうがねえよな!

(お願いしたくてしたわけじゃ…)





「はぁ...」のでけえおっぱいが
触りたかったんだよ
これがかなの生おっぱい...
おっぱいはもちもちで
乳首はコリコリ...
なんて淫乱おっぱいなんだ
ほらっ喘げ! 喘げ!
(あっやだ! そんな触られかたしたら
だめっ気持ちよくなっちゃう!
だめ! これは私の意志じゃないのぉ!)

ふっ

ふっ
ふっ
ふっ
ふっ

ふっ
ふっ

はみ
はみ
はみ

はみ
はみ

はみ

はみ



「ほり、

今度は机に乗って
股をみせろ」

「はい…たくさんみてください…」

(や、やだあ今あそこなんて
みられたら…感じてたのがバレちゃう…)

「ふうん。乳首いじられただけで
こんなにお漏らししたのか

かなでは見た目優等生なのに
実はこんなにエッチだなんて
クラスのやつらに見つかったら
大変かもなあ」



「ほらばんつも脱いで、
あーあ今誰か来たら
大変だなかなで」

(そ、そっだ…ここは学校で…)

「クラスのやつなんかみんな
かなででシコってんだぞ。

かなでと幼馴染で羨ましいとか
えろい身体盗撮してくれとか
頼んでくる連中だから

こんな姿みられたら即ハメされちゃうね」

(嘘、私そんな風に思われてたの…
もし誰かにこんなとこみられたら…)

お
み

「はい！」
合意セックスー！」

あーん
あーん
あーん

あーん
あーん

あーん
あーん

（あっだめっはじめてなのに！
なんでこんなに気持ちいいの！）
「はあ…キツキツかなでまん」最高
気持ちいいかなで

あーん
あーん
あーん
あーん

「おらっもっと感じろ！おらっもっ！」
（あっあっだめだめだめ！
さっきより馬鹿みたいに気持ちいい！）

あーん
あーん
あーん
あーん



「あーあ馬鹿みたいに喘いじゃって
可愛いなあ」

「ほらっ幼馴染様の精液
沢山やるからな」

「ちょっと騒ぎすぎだから
声は抑えろよー」

「あーでるっだすぞー」



「あー最高…かなでもう一発…
あれ、」

「あートんじやったか
まあいっか
明日またやればいいし
うーんかなでのおばさんは
なんとかなるとして
家まで連れて帰るのが大変だなあ」

「可愛い顔してるし頑張るか」





「ん?…」

「あれ、私…家…?
服、自分で着替えたのかな…」

「でもなんか股がぬるぬるする…
やだな、生理かな」



「これ、違う…
そっだ私学校であいつに…
やだ…早く中の出さなきゃ」

「出さないと、あ、赤ちゃん
できちゃうかもしれないし」

あ ちやま…



「う、なんか沢山でできた…
あ、あいついったいどれだけ出しててるのよ」

「……ここにあいつのが挿入ってて…
私初めてだったのにあんなに
馬鹿みたいに喘いで…」



んっ

んっ

(んっ…だめ…
あの時の快感がほしい…)

「…いつもみたいに
弄ったら気持ちいいはず」

んっ
んっ



(な、なんで…
気持ちいいけど違う…)

(たりない…たりないよ…
あいつのあの太いのがほしい…)



(「っ」じゃない！
浅いところも気持ちがいいけど
違う……！)

「っ」じゃない……

ちゅっ……

(あいつが挿入ってたときは
もっと太くて奥のほうを……！)

「おはようございます
って、かなでしかないんだけどな」

かなでの両親は今は旅行中でいない
だからなにかあったらよろしくねと
家の鍵を預かっている。

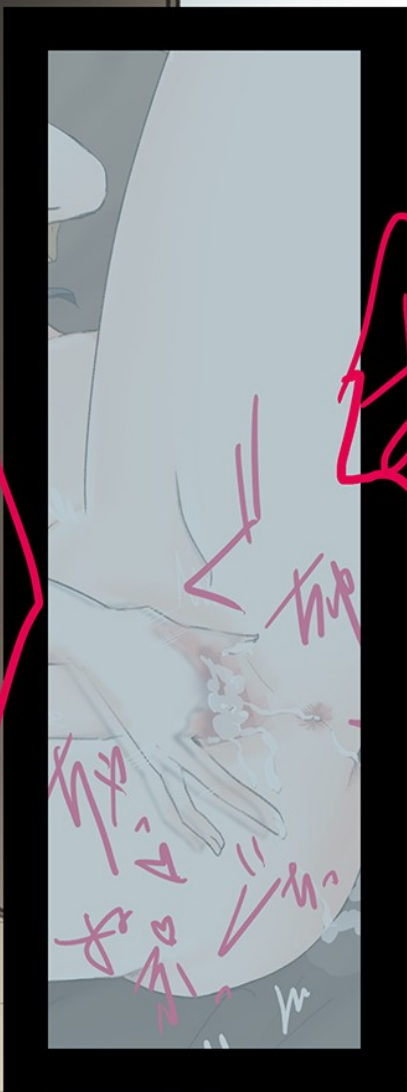


「これが幼馴染の特権ってやつだな」

「ん？かなでもう起きてるのか？
まだ早い時間だけど物音がするな
二階にあがってみるか」



「やっぱりかなでの部屋から声が聞こえる…」



「ふーん、なるほど。」

寝てるどころ悪戯してやろうと思ったけど

これは予定変更だな

とりあえず一回いったあたりで声をかけるか」



あ、あれ？
なんで近くまで来たのに見てるだけなの？

「ん？どつしたの？続けていいよ
おばさん達はいないし大きい声出していいんだよ」

続けろ？嘘でしょ

私昨日のこいつのちんぼのせいで
いくらオナニーしても足りないの「……っ



ね、ねえこ凄いでしょ
あんたのそれ今なら特別に挿入れていいわよ

「え？いや別にいいかな」

な、なによ
別に遠慮なんてしなくていいのよ
その租チン
挿入れていいって言ってるの

「はあーてかさあ酷くない？」

昨日意識なくしたかなで連れて帰って
服までかえてやったの俺なんだけど」

そ、そうだったの…？

(だから)

家に帰った記憶がないのか)

「それなのになんでは

ずっと一人エッチしてさ」

そ、それは

う

「しかも偉そうに俺に指図すんの
忘れたの？お前は俺の言っこと
きく立場なの。
つまり、お願いする側ね」





「ほら、かなで起きて」

「そうだよ
かなでの好きな
ちんぽだよ」

ちんぽお、
ちんぽお、

ちんぽお、
ちんぽお、
ちんぽお、
ちんぽお、
ちんぽお、

おはよ
おは

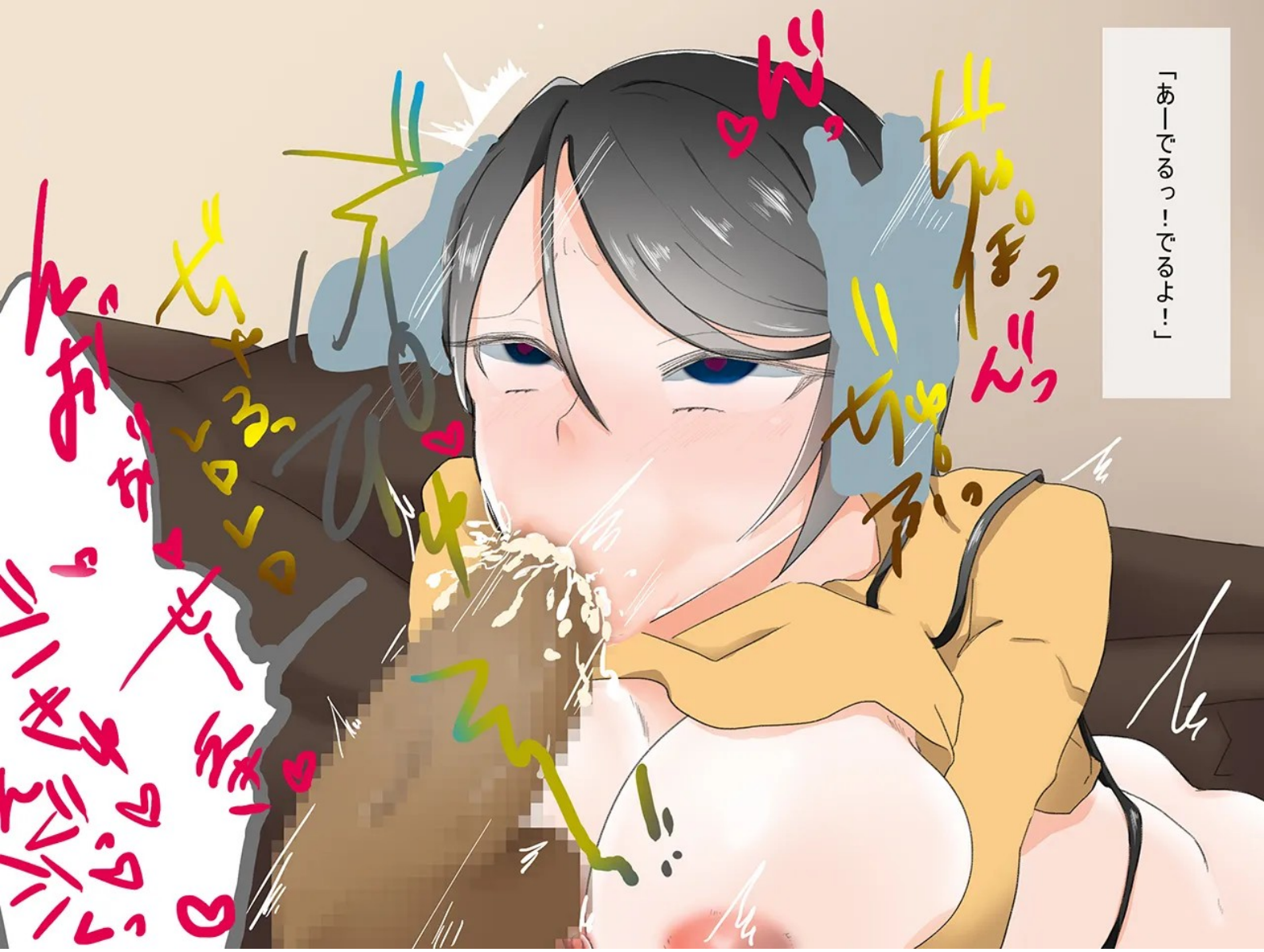
おはよ



「まじっ!!」っっっ!!...興奮っっ!!...」

「あーきもちー...」

「っっ!!」
「っっ!!」
「っっ!!」



「あーっ…っ…っ…っ…」



「よーしじゃあ次は服脱いでうつ伏せになってけつをあげろ」

「.....」

ニギヤッ♡

ニギヤッ♡

はぁい♡

お尻大好き♡

お尻



「何回言ったら分かるんだ！」

「態度が違うだろ!!!」

んおっ

んおっ

ん

ん

ん

ん



「はあー許してほしいか？」

はい……

「じゃあ今から
かなでの催眠解くから」

へえっ

さ、催眠術なくなったら……
あの気持ちいいの
なくなっちゃうんじゃない……

「俺はかなでの本心が知りたい。
な、かなではこれからどうされたい？」

ド
ド
ド
ド
ド



「ね、教えてよ」

「かなでほどうされたいの？」

「…」

#14
#14



「もっと焦らすつもりだったのにっ
思わず挿入してしまったよ」

「あーそういうえは強制的にイカされるのが
お好みなんだっけ？」





「あはは、全身気持ちいいねえかなで」

「乳首でイケ！
クリでイケ！」

「おらっイケ！
潮ふいてイケ！」





「おっぴがないな」

ほっころる
もちもちころる

わね
まだせーえき
あんなだー

「わっかなでいきなり倒すな」
デサッ

あ
ん
...





安心してよかなで

やもれちゃう♡
甘い♡

あ♡
あ♡
あ♡

あ♡
あ♡

あ♡

あ♡



「また蓋してあげるからさ」



「うんうんいい子いい子
じゃあこれは「ほうびだ」

ま、い、ち、
な、か、だ、し、
お、ね、が、か、い、ま、
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡

「あー気持ちい…
明日もするからな！
約束したもんな！」

お、お、お、
♡♡♡
♡♡♡



♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡



「あれ、またトんじやった？
でもまあこれからも
長い付き合いになるからな」

あーっ
あーっ

あーっ
あーっ

あーっ
あーっ

あーっ
あーっ

あーっ
あーっ

あーっ
あーっ
あーっ
あーっ
あーっ
あーっ

あーっ
あーっ

あーっ
あーっ

あーっ
あーっ

「というわけで
末永くよろしくな
かなで」



おはよう
おはよう
おはよう









































